

三光

スローガン

八面に広がる三光
～住みたくなるふるさとをつくろう～

実践目標①地域の交流を深めよう

実践目標②お互いに支え合う地域づくりをしよう

実践目標③向こう三軒両隣の防災のしくみをつくろう



三光地区には中津市のシンボルともいえる八面山があり、平野に田園が広がる地域です。また地区によってはベッドタウンとして少しずつ世帯数が増えています。

全自治区でいきいきサロンが活発に行われており、ここ数年は、地域福祉ネットワーク協議会「ふくしの里“ややま”」や住民型有償サービス「三光こすもすサービス」が立ち上がるなど、小地域での取り組みが活発に進められています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	5,492	5,250	5,037
世帯数	2,125	2,182	2,221
高齢化率	28.3%	32.8%	36.0%
一人暮らし高齢者	336	437	489
高齢者のみの世帯		1,213	1,251
0～18歳人口	919	893	854

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

地域の交流を深めよう

「サロンの参加者がいつも同じ」「サロンへの男性の参加が少ない」「交流の場の情報が無く、参加する機会がない」など、祭りをはじめ地域全体で取り組む行事がある一方で、交流の機会が不足しており、日頃の関係が希薄になるのではないかという意見が多くありました。

サロンや行事を続けることで交流の機会となり、地域の中で顔の見える関係ができます。普段の生活の中で挨拶を交わす機会がうまれることで、自然と多世代の交流ができ、後継者の育成にもつながります。

実践目標②

お互いに支え合う地域づくりをしよう

「一人暮らしの人へどう声かけしたら良いかわからない」「ひきこもりについて困っている家族がいると思う」「将来買い物など生活に必要なことに困りそう」などの意見から、困った時の相談先や今後の日常生活を心配する声がありました。

認知症やひきこもり等について知る機会を持つことにより、生活の中での困りごとが他人事ではなく“自分ごと”として捉えられるようになります。お互いが気に掛け合うことで、ちょっとしたことも気軽に相談できる安心して暮らせる地域づくりへとつながります。

実践目標③

向こう三軒両隣の防災のしくみをつくろう

「災害の経験が無く、想像できない」という意見が多くあり、近年自然災害に見舞われる機会が無かったため防災に対する意識が低いという問題が出ました。そのため、実際の災害時にどのように動けるのか不安を感じています。

避難訓練をはじめとした防災を意識できる取り組みを重ねることにより、1人ひとりが『防災』について自主的に関わる意識を高めていくことで、実際の災害時にも近隣同士で助け合える地域づくりへとつながります。



地域で子どもたちを見守りながら育てよう

班単位での助け合いをしよう



【三光】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
世代間交流を継続する					
昔からの祭りや運動会などの行事を継続する					
小さな単位で人と交流する機会をもつ					
地区内の世話役同士が話し合える機会をもつ					
サロン等行事の際、参加している人が周りの人に声かけて誘う					
子どもの登校及び下校を見守る					
地域活動の後継者を育てる					
交流のやり方など情報収集する					
早めに行事日程を決めることで参加しやすくする					
家族など介護している方への支援について考える					
コミュニティセンター を活用して学習会を開催 する	①認知症について				
	②成年後見制度について				
	③障がいについて				
制度や支援内容などの情 報のPR をする	①生活困窮者の支援について				
	②ひきこもりについて				
	③三光こすもすサービスについて				
個人の困りごとを気兼ねなく頼れる仕組みをつくる					
宅配を活用できる仕組みをつくる					
小地域単位での避難訓練を行う					
避難困難者の支援について確認する					
火災警報器や消火器の確認をする					
一人ひとりの避難時の行動計画を作成する					
日頃から防災に対する意識啓発を行う					
今まで以上に地区防災会が活性化する					



地域の福祉活動の
情報を発信しよう



第4次の実践目標はこうして決まりました

三光地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	45人（男性18人/女性26人/無回答1人）
回答者年代	20代：1人、30代：4人、40代：5人、50代：1人、60～64歳：4人、65～74歳：24人、75歳以上：5人、無回答：1人

内容抜粋 無回答分は除いています

<p>【問1-5】高齢者と若い人など、世代の異なる人同士の交流の機会がある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>46%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>33%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>21%</td></tr> </table>	回答	割合	ある	46%	ない	33%	わからない	21%	<p>【問1-6】気軽に参加できる住民同士のサロンがある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>81%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>2%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>17%</td></tr> </table>	回答	割合	ある	81%	ない	2%	わからない	17%
回答	割合																
ある	46%																
ない	33%																
わからない	21%																
回答	割合																
ある	81%																
ない	2%																
わからない	17%																
<p>【問2-2】ひとり暮らしの人がちょっと困った時に住民同士で助け合っている</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>59%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>14%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>27%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	59%	そう思わない	14%	わからない	27%	<p>【問2-4】わたしが困ったら支えてくれる人や仕組みがある</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>46%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>12%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>42%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	46%	そう思わない	12%	わからない	42%
回答	割合																
そう思う	59%																
そう思わない	14%																
わからない	27%																
回答	割合																
そう思う	46%																
そう思わない	12%																
わからない	42%																
<p>【問3-2】生活に困窮している人の支援がもっと必要である</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>44%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>14%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>42%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	44%	そう思わない	14%	わからない	42%	<p>【問4-1】災害が起こった時のことを考えると不安である</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>77%</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>7%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>16%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	77%	そう思わない	7%	わからない	16%
回答	割合																
そう思う	44%																
そう思わない	14%																
わからない	42%																
回答	割合																
そう思う	77%																
そう思わない	7%																
わからない	16%																

アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- 交流の場や機会の情報発信の方法や手段を考える必要がある
- 退職後の男性の力が発揮できる場を作る
- 男性が地域行事等へ参加しやすくなるしくみを考えボランティア活性につなげる
- コロナでもできることをするため、交流のやり方など情報収集をする
- ケーブルテレビを活用して「伝え方」の工夫が出来る高齢者にも情報が伝わるのではないか
- 家庭で「防災の日」を作って非常食の無駄をなくす

作業部会で出された、三光の良いところ

- ・学校と地域の交流がある
- ・深水小学校の行事には地域住民も積極的に協力する（プール掃除も一緒にする）
- ・サロンが 15 地区にある
- ・「あいさつプラスワン運動」等、近隣同士での声のかけあい・見守りができている
- ・世代間交流の機会が比較的多い
- ・地域によっては住民が少なく、みんなで地域行事も参加している
- ・認知症になっても助けてくれる家族・親族が多く住んでいる
- ・公共施設、商業施設でバリアフリーが進んでいる
- ・小学校の登校（下校）はボランティアが見守りをやっている
- ・住民型有償サービス「三光こすもすサービス」で、一人暮らしの人などの色々な困りごとに対応している

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



三光の社会資源

(R3 年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン (15)	佐知、土田、臼木、小袋、諫山、原口、成恒、森山、下田口、上田口、西秣、下秣、上秣、下深水、上深水
	週一体操教室(5)	森山健康クラブ (毎週火曜・森山地区多目的集会所) 成恒健康クラブ (毎週火曜・成恒集会所) 上秣健康クラブ (毎週木曜・上秣営農集団センター) うすぎ健康でいようクラブ (毎週木曜・臼木多目的集会所) 下秣いきいき健康クラブ (毎週月曜・下秣公民館) 土田長寿クラブ (毎週木曜・土田公民館)
ボランティア活動	給食ボランティア	たけのこの会 (月1回・第1月曜日)
	三光で活動する地域ボランティア	三光観光ボランティアガイドの会、佐知おどり愛好会、むつみ会、臼木ボランティアグループ、うぐいすの会、下秣ボランティアグループ、虹の会
住民型有償サービス		三光こすもすサービス
防災活動		消防団、防災士協議会三光支部
防犯活動		スクールガード

関係機関が主催する交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェ三光	地域包括支援センター社協	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 社協
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第1金曜 10:00 ~ 12:00 三光コミュニティセンター
生活支援コーディネーターによる相談窓口	毎月第2金曜 13:30 ~ 16:00 佐々木さんち

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153 参照) にお問い合わせ下さい